

No. 303【2018年4月20日配信】

青森電灯株式会社はなぜ解散したか？(担当：村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

歴史資料室では4月12日から新しい企画展示「『あおり歴史トリビア』300回を振り返る」を行っています。この展示はこれまで配信してきたメールマガジンに関連する資料や図書をご紹介します。今回はこれまでの展示にはなかったクイズコーナーも作ってみました。ぜひチャレンジしてみてくださいね。

さて、市民図書館7階エントランス(エスカレーター横)の展示ケースには『青森電灯株式会社解散記念写真帳』(1934年 青森電灯株式会社)を展示しています。青森電灯株式会社は明治30年(1897)3月に営業を開始した県内初の電気事業所で、昭和9年(1934)3月に解散しました。本社があった場所(茶屋町1丁目)には「電気百年記念碑」が建立されています(詳しくは「あおり歴史トリビア」第161号をご覧ください)。写真帳は会社の解散にあたって制作されたもので、発電所・変電所といった施設や社員の顔写真などが掲載されています。



『青森電灯株式会社解散記念写真帳』
(1934年 青森電灯株式会社)



浪打変電所
(『青森電灯株式会社解散記念写真帳』より)



上松澤発電所
(『青森電灯株式会社解散記念写真帳』より)

では、なぜ青森電灯株式会社は解散したのでしょうか。

会社の解散には青森県の方針が関係していました。県は昭和4年の青森県産業調査会における答申から電気事業の県営について検討を始め、他県の事例などを調査・研究した結果、昭和8年に県内の電灯会社を買収して県営化する方針を決定しました。そして、同年7月から8月にかけて、県と青森電灯株式会社の間で買収交渉が行われ、青森電灯株式会社は県に事業を譲渡して解散することを決定したのです。

一方、電気事業の県営に関する議論が進む中で、青森市は電気事業の市営という考えを表明しました。昭和8年3月、青森市会は電気事業の市営について満場一致で可決し、同年8月には市も青森電灯株式会社と買収交渉をしています。しかし、青森電灯株式会社は県に事業を譲渡することを決定しており、市に事業を譲渡することはできないと回答しました。

その後も市は政府へ陳情を行うなど運動を続けましたが、昭和9年2月に政府が県営電気事業を認め、4月には県庁内に「青森県電気局」が設置されて県営電気事業がスタートしました。



青森県電気局青森営業所
(『青森電灯株式会社解散記念写真帳』より)

なお、戦時体制に入ると電気事業の国家管理政策が進められて、県営電気事業は昭和17年に東北配電株式会社へ統合されました。そして戦後は東北電力株式会社へと引き継がれています。

※今回の内容は『新青森市史』通史編第三巻(2014年 青森市)、『東北の電気物語』(1988年 東北電力株式会社)などを参考にしました。